



長野県

信州の山の中で暮らし、歴史、文化、自然を学ぶ

～里山から山岳の中で～

基にしたモデル的なプログラム	「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）
作成団体名	愛知県岡崎市立新香山中学校
実証協力校等	松本市立源池小学校

SDGsの要素	  
ESDの要素	    
能力／態度	     

● プログラムの概要

山に囲まれた地域に暮らしていながら、「山」を身近に感じられない児童がいます。この授業では、「山を大切にする」気持ちを育むために、「奥山」「里山」をテーマに、山と人間のつながりについて学習します。里山での体験、奥山の様子や里山での保全活動の映像、山岳ガイドや里山保全活動をしている人の話から理解を深めます。里山の歴史や災害等を学び、「どんな里山だったらいいだろう」、奥山については「山道はなんのためにあるのだろう」と投げかけ、自然と人間の共生について話し合いをします。

暮らしを取り巻く山の全体像を学習し、意見を引き出しながら「山を大切にするために必要なこと」を考え、全校児童、保護者、地域の人に発表します。

● プログラムの目標

里山での体験を通して、山のよさ・豊かさ・働きを知り、自然と人間、動植物が共存していることに気づき、相互につながって生きていることを学びます。グループでの話し合い活動を通して、多様な意見や違いを認めつつ、自分の意見を発言する力、他の意見を受容する力を育みます。発表会に向けて、発表内容の作成における協力する力、共感を得るためのプレゼンテーション力を育みます。生態系の大切さを理解し、人間もその一員であるという意識を育て、多様な視点から奥山・里山を考えることを通して、持続可能な社会づくりに取り組む姿勢、行動意欲を育みます。



「この間いった場所だ」。ゲストティーチャーの里山のお話



「こんな里山がいいな」を発表！



間伐材でつくったベンチ「シカのさぶろう」

● 参加者の声

- 間伐材を使った小屋を作って泊まってみたい。
- 作家になって里山の素晴らしさを伝えます。
- 自分の子どもを里山につれて行って、自然を感じさせたい。
- 自然いっぱいの中を未来に残したい。
- 僕は里山を何兆年も守りたいと思う。大人になったらずっと里山に住みたいと思うくらい大切です。

• プログラムの流れ

1～3時間目	里山体験学習
4～5時間目	間伐材でベンチ作り
6時間目	地域活動している人の「里山のお話」 【映像①】昔の里山～現在の里山 【映像②】今の里山について ワークショップ「里山についてできることは何だろう」
7時間目	山岳ガイドによる人の「奥山のお話」 【映像③】登山体験の映像 ワークショップ「山道はなんのためにあるのか考えよう」 【映像④】鉢伏山の山道
8時間目	学習のまとめ・理解を深める
9時間目	発表会準備
10時間目	学習発表会